



南丹市立美山小学校

オフィシャルウェブサイト



〒601-0751 京都府南丹市美山町島 島台52番地 TEL: 0771-75-0017 FAX: 0771-75-0106 MAIL to: miyama-es@kyoto-be.ne.jp
通級指導教室（ことばの教室） TEL: 0771-75-1097

美山小学校WEBページ

トップページ

- ・学校紹介
- ・行事予定
- ・学校だより
- ・研究推進
- ・学校評価
- ・美山学
- ・美山学だより
- ・図書室だより
- ・R3年度美山っ子日記
- ・感染症対応マニュアル
- ・就学援助制度について
- ・いじめ防止基本方針
- ・気象警報等の対応
- ・全国学力・学習状況調査結果

since 2016.04.01

COUNTER 830895

リンク集

[南丹市教育委員会](#)
[南丹市役所](#)
[京都府教育委員会](#)
[京都府南丹教育局](#)
[文部科学省](#)

[南丹市立美山中学校](#)

南丹市立美山小学校

〒601-0751
京都府南丹市美山町島 島台52番地
TEL 0771-75-0017
FAX 0771-75-0106
MAIL miyama-es@kyoto-be.ne.jp



本ホームページの著作権は、南丹市立美山小学校に帰属します。

図書室から本のこと、読み聞かせのこと、言葉にかかわる話題などお伝えします!!

日誌

図書室からのお知らせ

1 2 3 4 5 次 ▶

カテゴリ選択 ▼

10件 ▼

■ 2022/12/19 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1年生

「ちいさなサンタまちに行く」

作)アヌ・ストーナー

岩崎書店

サンタの国に住む、小さなサンタクロースは森の動物たちにクリスマスプレゼントを届ける仕事をしています。ある日、町の動物たちから「どうしてプレゼントをもらえないの?」という手紙が来ました。小さなサンタは町に行くのは無理だろうと言われていましたが・・・。



もうすぐクリスマスですから ここはやっぱり クリスマスの本を・・・ということで 小さなサンタが がんばるお話を読みました。

1年生なので サンタクロースには興味津々なんだろうね。

「どうして小さかったら町にいけないの?」とか 疑問もいっぱい出てくるようでした。

2年生

「サンタクロースって ほんとうにいるの?」

作)てるおか いつこ

福音館書店

サンタクロースについての こどものいろんな疑問に なんて答えたらいいのでしょうか? そんな大人に ぜひ読んでほしい本です。



子どもの気持ちも大事にして 愛や優しさ、思いやる気持ちを さりげなく伝えてくれます。絵も わかりやすくていいですね。
40年以上前の古い絵本ですが、今の子どもたちにも 伝わる絵本です。
じっくりと 聞いてくれていました。

「サンタのおくさん ミセスクロース」

作)磯田 和一 佼成出版社

クリスマスイブに風邪を引いてしまった夫にかわり、妻のミセス・クロースがプレゼントを配って大活躍。でも、最後に訪ねた家でプレゼントが足りなくなってしまう!.....
そこはなんといってもミセス! 夫のサンタさんには真似のできないサプライズプレゼントを作ってしまう。



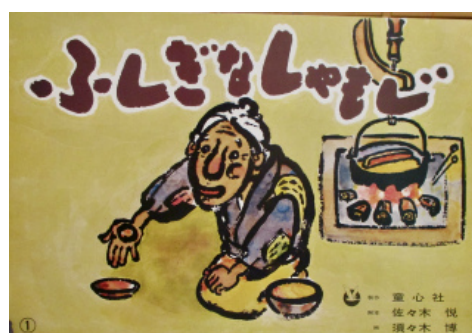
日本では あまり馴染みがありませんが「ミセス・クロース Mrs. Claus」は、サンタクロースの妻・奥さんに該当するキャラクター。
アメリカやイギリスなど英語圏で定着しているクリスマス文化の一つだそうです。

3年生

紙芝居「ふしぎなしゃもじ」

作)佐々木 悦 童心社

おばあさんがおにぎりを作っていると、ころころころがって、穴の中へ。
追いかけていくと、鬼につかまってしまう!...
鬼に与えられたしゃもじで、鬼の飯炊きをさせられるおばあさん。
鍋の中でひと混ぜすれば、食べ物が一万倍に増える。村へ帰りたくなったおばあさんは、しゃもじを持って逃げ出しますが...



こんなすごいしゃもじがあったら みんなは 何を一万倍にする? と 尋ねると・・・圧倒的に「お金」という答え。

まっ そうなるかなあ。

4年生

「わすれられないおくりもの」

作)スーザン・バーレイ

評論社

まわりのだれからも、したわれていたアナグマは、年をとって死んでしまいました。
かけがえのない友を失ったみんなは、どう、悲しみをのりこえていくのでしょうか.....。



年齢を重ね、経験が増えていくと、「死」というものが、残された人のものであるという事がよくわかっていきます。そして、もちろん「死の悲しみ」は解説できることなんかじゃない、ということも。

この絵本では、残していく者と残されていく者を、前半と後半に分けてしっかりと丁寧に描き、誰の心にも届くように優しく繊細に語りかけてくれています。

死を迎えるということは、どういうことなのか。

亡くなった人とどう向き合っていけばいいのか。

正解なんてないからこそ、それぞれの立場から好きなように読み解くことができるのでしょね。

この絵本がロングセラーとして読み継がれている理由は、「アナグマの死」を通して、愛情や友情、知恵を引き継いでいくことの大切さ、そしてそれぞれの生き方までを考えさせてくれるような、その静かな語りかけの魅力なのかもしれません。

5年生

「きんいろのしか」

作)石井 桃子

福音館書店

昔、南の国に、一人の王様が住んでいました。

この王様が世の中で一番好きなのは、金でした。ある日、王様は森で金色の鹿を見つけます。

鹿が踊ると、足下の砂が金に変わるのです。

王様は鹿を生け捕りにしようと思いますが、うまくいきません。

そこで王様は、ホセンという牛追いの少年に3日以内に鹿を連れてくるよう命じます。

ホセンが鹿を連れて王様の御殿に到着すると、鹿は踊りに踊ります。

すると金の砂がうずたかく積もって、王様を埋めてしまいます。



物語性に富んでいて ハラハラドキドキする展開もさることながら 秋野不矩さんの絵が素晴らしいのです。

ある場面では、迫力があり、ある場面では、とても神秘的であり、またある場面では、うっとりとするくらい美しく描かれています。

長年 絶版で手に入らなかった絵本なのですが 今年復刻されました。

美山の住んでおられた秋野さんのことを 今の子どもたちは知らないようだけど 大切にしていきたい絵本です。

6年生

「ロバのシルベスターとまほうの小石」

作)ウィリアム・スタイグ

評論社



ロバのシルベスターはとうさん、かあさんと一緒に住んでいました。
 かわった形や色の石を集めるのが楽しみだったシルベスターはある日、願ったことがかなう魔法の小石を手に入れます。
 大喜びで何を願おうかと考えていると、目の前に腹をすかせたライオンが。
 そこでシルベスターはあろうことか「ぼくはいわになりたい」と願い・・・、岩になってしまいます。
 たったひとつの希望は、誰かが小石をひろって、彼が元に戻ることを願ってくれること。
 でもそんなことは奇跡でも起こらない限り無理でしょう。
 無情にも時は流れていきます。ところが、奇跡は起こるのです。
 魔法よりも、ずっと大切なものがある。そう感じさせてくれる作品です。

09:32 | 読み聞かせ

■ 2022/12/12 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1年生

「おもちのきもち」

かがくい ひろし 講談社

おもちに「きもち」なんてあるの？
 ...それが、あるみたいですよ！
 「もう たいへんなんです。」
 何かといえば・・・おもちつきでは頭をベッタンベッタンたたかれ、のしぼうでのぼされ、ブッチンとちぎられ。あんこやきなこや芋旬にねばねば納豆に混ざられて。確かに散々です。
 「かがみもち」と呼ばれるようになったても
 「いつ なんかき たべられる ことやら。ああ おそろしや。」
 なんと「かがみもち」は床の間から逃げ出すことにするのです！
 一体どこに？ どうやって？ なんのために...？
 もうここからは、想像の範囲を超えていく驚きの展開です。



お餅つき するー!! という子もいましたが あらあら 鏡餅って見たことない、っていう子も。
 でも お餅のことはよく知っているの みんな 大笑いしながら聞いてくれました。

「ゆびたこ」

作)くせ さなえ ポプラ社



今度1年生になるのに、指しゃぶりがやめられない私。
 ぜったいやめたいのに…。ある日突然、親指のユビタコがしゃべった！？
 しゃべるゆびたこ、なかなかホラーな設定です。こんなのあったら驚いちゃう。
 実際にゆびしゃぶりがやめられない子がいたら、こわがっちゃう？
 いえいえ、このゆびたこ、見てると笑っちゃうのです。
 だってなんだかヘンな顔。関西弁で すってくれーと叫ぶのです。

みんな 興味津々で 聞いてくれていました。

2年生

「ハリネズミと金貨」

作)V・オルロフ 偕成社

ハリネズミのおじいさんが森で金貨を拾います。
 この金貨で色々を買おうと思うおじさんですが、周りの友だちによって、金貨を使うことなくほしいものが手に入ります。
 だれかの役に立つかもしれない、と おじいさんは金貨をまた 道端に置いて帰ります。



困っている人がいたら 手をさしのばすことが当たり前だと だれもがそんな風に思っていたらの 争いも怒らないのに・・・。
 2年生に ビンとくるかなあと ちょっと気になりつつ読んだのですが ちゃんと 最後のおじいさんの行動の意味も分かってくれていたみたいでした。
 本の表紙には「ロシアのお話」と書かれていますが 作者は 旧ソビエト連邦から独立して帰属が変わったウクライナの人です。

3年生

「メリークリスマス おさるのジョージ」

作)M・レイ 岩波書店

きいろいぼうしのおじさんと、クリスマスツリーを買いにきたジョージは、のぼっていた大きな木ごとトラックで運びだされてしまいます。
 行き先は、こども病院。好奇心いっぱいのジョージは、病院のなかでみつけたレントゲン写真や包帯でツリーをかざりつけ、入院している子どもたちをよろこばせます。



いたずら好きで ちょっとおっちょこちょいのジョージのお話に登場する人たちは みんなやさしいですね。
描かれているジョージも とってもかわいしいし 読んでいても やさしい気分になります。

4年生

「むかしむかし とらとねこは」

作)大島 英太郎 福音館書店

むかしむかし、トラはとてものろまで、狩りをするのが下手でした。
いっぽうネコは、毎日、たくさんの獲物を捕ってくるのです。
そこで、狩りの方法をネコに教えてもらうことになります。



自然界では、ネコやヒョウなどのネコ科の動物は木に登るのが得意ですが、トラだけは例外的に、ほとんど木に登ることがありません。
このようなトラとネコの生態をよく知っている中国の人々が生み出した昔話を、絵本にしたものです。

5年生

「ねえ、どれが いい？」

作)ジョー・バーミンガム 評論社

ジャムだらけになるのと、水をかけられるのと、泥んこになると。
お城で食事が、気球で朝ごはんか、川でおやつ.....これは本当に迷う。どれなら食べられる？ どれなら我慢できる？ どっちがいいや？



考えてもみなかった究極の選択ばかりですが 子どもたちはこんな質問が大好きなんですよ。
低学年向けの絵本のようなのですが 5年生でも かなり真剣に考えて 悩んで 選択してくれ とっても楽しんでくれています。
「いいな」と「いやだな」のギリギリのところを攻めてくるので 大人でも 楽しめますね。

「たいせつなこと」

作)マーガレット・ワイズ・ブラウン

フレーベル館

1949年にアメリカで出版されて以来、読みつがれてきた絵本です。
「たいせつなこと」とはなにかを、やさしく詩的な文章で語りかけます。



いろんなものについての問いかけがあるので 次は何だろう、と 思いながら聞いてくれたようで じーっと真剣に耳を傾けてくれていました。

6年生

「水曜日の本屋さん」

作)シルヴィ・ネーマン

光村教育図書

あのおじいさん、いつも戦争の本を読んでいるけれど、どうしてそんな本を読むの……？
フランスの街角の小さな本屋さんを舞台に 心の交流を描いた絵本。



心がほっとあったかくなるお話ですが あいまいにえがかれている部分も多い絵本です。
「どうしておじいさんは 戦争の本を読むのか」「そんなに好きな本なのに どうして買わないのか」「おじいさんの来ない日があったわけは」
明確な答えはないけれど 少し考えてみると おじいさんの人生が想像できるようです。

10:57 | 読み聞かせ

■ 2022/12/05 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1年生

「そらから ほふーん」

作)高畠 那生

くもん出版

そらから「ほふーん」と落ちてきたのは、巨大な巨大なホットケーキ！

あまりにも大きくて、男は悩みます。これ、食べていいの...？
そうこうするうちに「トゥン」とおちてきたのは、バターの滝。
つぎに「どっぷーん！」と落ちてきたのは、はちみつの洪水。
はちみつだらけになった男は、なんとホットケーキの中へ...
こ〜んなに大きなホットケーキに遭遇したら、さあ、あなたならどうしますか？
ふしぎで意外で、ムズムズ五感を刺激する絵本です。



空から何かが落ちてくるお話なんだけど 何が落ちてくると思う？ と 尋ねると
「隕石」「雲」「石」などという答え。
さすがに 食べ物が落ちてくる！ という声はなかったので しめしめ。
面白がってくれそうな予感たっぷり で 読み始めました。

「ひゅ〜」「ぽふーん」「ぽぽ〜ん!」「とうん」など 不思議なオノマトベもたくさんあって 読んでいても楽しい気分になれました。
みんなにここにこ うれしそうに聞いてくれていました。

2年生

紙芝居「サルとカニのもちつき」

作)吉田 たきの 教育画劇

山のてっぺんで仲良く餅つきをしたサル太とカニ子。
出来上がった餅を見たサル太は、餅をひとり占めしたくなり...。
サルの尻が赤くて、カニのハサミに毛が生えている理由をユーモラスに語る民話の紙芝居。



猿蟹合戦は知っているも このお話は知らなかったようで みんな興味津々で 紙芝居に集まってくれました。

3年生

「おなおしやのミケばあちゃん」

作)尾崎 玄一郎 偕成社

ミケばあちゃんは、はるばあさんがやっている駄菓子屋でくらす三毛猫です。
店の床下には、ミケばあちゃんがこわれたおもちゃを直す「おなおしや」がひそかに営まれていました。
お客さんが減った駄菓子屋をはるばあさんが閉めると知ったミケばあちゃんは、おなおしやに運ばれてくるおもちゃたちと一計を案じますが.....。
床下の世界を迫力満点に描いた1冊です。



床下、って わかるかな？

さすがに美山では 床下のあるお家に住んでいる子も多いので みんな知っているようでしたし 床下にもぐりこんだこともある、という子もいました。

目つきはするどいの、なぜか視線はやわらかな、ミケばあちゃん。

すこしおっくうそうに仕事場に座り込み、ちょいとメガネを引っ掛けて、針をついつい、のりをべたべた。手仕事で黙々とおもちゃたちを直していくミケばあちゃんの、みょうに人間くさい仕草がなんともおかしく、かわいいみどころです。

4年生

「ふしぎなおじさん」

作)谷内 こうた 講談社

ある霧のふかい冬の朝、少年と少女は公園で、はとをつれた1人のおじさんに出会います。おじさんは手品師。かけ声とともに、次々とふしぎなことをしてみせます……。



美山でも 霧の深い朝がよくありますね。

そんな時は 幻想的な気分になるものですが そういう気持ちが絵本になったような気がします。

なんだかよくわからない 不思議なお話で 聞いてくれたみんなも なんだかよくわからない 不思議そうな顔をしていました。

5年生

「アナグマさんは ごきげんななめ」

作)ハーウィン・オラム 評論社

みんなの大すきなアナグマが、くらいかおでふさぎこんでるって！

「つかれて、なにもかも、うんざり」だって！ みんなの心配もやくにたちません。

そこでモグラはあることをー？

ひとはときどき知りたくなるんだ。

どんなに愛されているかを、どんなに必要とされているかをね…。



感謝の気持ちや 大好きだよ、っていう気持ちは やっぱり 相手にちゃんと伝えたいですね。
改めて そう思うお話です。

6年生

大型絵本「半日村」

作)斎藤 隆介 岩崎書店

一日のうち半日しか陽があたらない半日村。
その貧しい村に陽をあてようとして、村のうしろにある高い山をけずる少年の一平……。



切り絵もしっかり見てほしいので 大型絵本で読みました。
毎日毎日、山の石を削って、湖に埋めるという行動に出た少年。
周りの人に無理だといわれても、ひたむきに続ける姿に徐々に周りの人間が影響され、知恵を与え、協力していく過程は、
とても感動的で このことも 伝えたいなあ、と 思い 選んだ一冊です。
静かに 耳を傾けてくれていたようでした。

09:23 | 読み聞かせ

■ 2022/11/21 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1年生

「アベコベさん」

作)フランセスカ・サイモン 文化出版局

アベコベさん一家は、きまって真夜中に起き、パジャマに着替えて夕食のため2階へと上がります。
すべてがさかさなアベコベさん一家。世の中には、いろんな人がいるんですね。



1年生の読み聞かせに何を读もうかと考えていたら 2年生の娘がおすすめしてくれました。
「アベコベ」という言葉を知らなかった1年生ですが、表紙の絵を見て「さかさま」「はんたい」ってこと、と すぐにわかってきて 読み始めました。
子どもたちにはこのアベコベが みよーに面白いようで アベコベをいっぱい発見して とっても楽しんでくれています。
電子黒板に絵を映してみてもらったので みんなにしっかり見てもらえて それもよかったと思います。

2年生

「ろくべえまってるよ」

作)灰谷 健次郎 文研出版

たいへんだ！ 犬のろくべえが深い穴の中に落ちてしまった。
早く助け出さないと死んでしまうかもしれない。どうしよう！
子どもたちは救出大作戦に……。



40年以上も前の絵本です。
保育所で読んでもらっているかな、と思いましたが 知っている子は3人ほどでした。
全体的にトーンが薄暗く こどもが描いたような絵なのですが だからこそ こどもたちの目線や心情が よく伝わってくるように思いますが 聞いてくれていた当の子どもたちはどうだったかな？
しーんと とっても静かに聞いてくれていましたが……。

3年生

「グリドン グリドン」

作)宮西 達也 ひかりのくに

すごーくうたらな王様が「グリドン グリドン」と唱えると、何にでも変わる魔法のドングリを持つ猫をつかまえました。
王様は魔法のドングリを猫から取り上げて、城からみんなを追い出し、好き放題に一人で暮らしていました。
でも、だんだいい寂しくなってきたので、猫の姿に変身して町へでかけていきますが…



昔話だと 人間に戻れなかった王様は 城を追い出されたり 最後はひどい目になって「楽ばかりしてはいけない」というような教訓で終わりがちですが なんとこのお話は「ぐうたらは さいごうのさいごう」で 終わるんです。笑っちゃいますね。
なんとなく頭に残るこの呪文。あとで3年教室の前を通ると「グリドン グリドン」と口ずさんでいる声が いくつも聞こえてきました(笑)

4年生

「天女銭湯」

作)パク・ヒナ ブロンズ新社

少女・ドッチのすむ町には、ふるーい銭湯があります。
ともだちはみんな、新しいスパランドに行くけれど、ドッチは、大好きな水風呂と、あかすりのあとに買ってもらえる Yakult をたのしみに、きょうも長寿湯にかよいます。
いぬかきしたり、水泳選手の真似をしたり、水風呂で遊んでいると...「なんや、このばあちゃん どっからでてきたん！」はごろもをなくしたという、天女があらわれた！



まず 表紙のインパクトがすごいですよね。
ブサカワ、とでもいうのでしょうか ドッチやお母さん、天女の表情のリアルさに大人は目が離せなくなるのですが もし かけて 子どもたちには 不気味に映るのかも？
笑うでもなく 妙な静けさでした。
担任の先生は「面白い話ですね」と 言ってくれましたが・・・。

5年生

紙芝居「セロ弾きのゴーシュ」

作)宮沢 賢治 童心社

ゴーシュはセロの音があわないと楽長にいわれ、一人水車小屋に帰って練習することにしました。
すると、毎晩動物があらわれて....。



宮沢賢治の代表作ですが 誰も読んだことがないようでした。

宮沢賢治の作品は原文のままだと古典的な言い回しもあり、長すぎたりと なかなか読み聞かせで読むには難しいのですが この紙芝居は読みやすい脚色で、子どもたちにもわかりやすいと思います。

6年生の国語で 宮沢賢治を扱ったときに このお話を紙芝居で見たことある、って 思い出してくれたらいいですね。

6年生

「へんてこはやくちことば」

作)新井 洋行 小峰書店

駅などで見かける電車のマーク。

いつもはだまっているけれど、たまにはたくさんしゃべりたい?!

電車のマークが左右のページに3つずつ並んで「でんしゃ ごとごと みごとごと あわせて ごとごと むごとごと」。

楽しい「へんてこはやくちことば」です。



その後もページをめくるたびに、信号機ありのマーク、赤まるに斜線の禁止マークなど、いろんなマークが登場します。

そこにリズムカルでユーモラスな「へんてこはやくちことば」が添えられ、挑戦できるようになっているので 声に出して読みたくなります。

幼児絵本のようですが 日常目にするマークがいろいろ載っています。

この絵本を読んだ後は、マークへの興味がわいて、今まで目に留めることのなかったものが気になり出すかもしれません。

目で楽しみ、声に出して楽しみ、見つけて楽しみ、想像して楽しむ。

日常生活とつながって、いろんな楽しみ方のできる一冊です。

と 楽しくリラックスしてもらった後は 気分を変えて 落ち着いて聞いてもらうお話

「バスが来ましたよ」

作)由美村 嬉々 アリス館

全盲になった男性が、小学生に助けられながら続けた、バス通勤。

「バスが来ましたよ」その声はやがて、次々と受け継がれ...

小さなひとこと、小さな手。でも、それは多くの人の心を突き動かした。

小さな親切のリレーの物語。



実際にあったお話が絵本になりました。

さきちゃんをはじめとする小学校の子どもたちは、自発的に山崎さんへの声かけを引き継いで、続けていたそうです。また、さきちゃんが通っていた学校と山崎さんが交流する中で、さきちゃんよりも先に山崎さんを支えてくれた児童がいたり、いつも助けてくれる子がお休みのときは、別の子が助けてくれていたこともわかったそう。思いやりのバトンを渡し続けてきた子どもたちの優しさ、そしてその親切に支えられた山崎さんの幸せな気持ちを、ぜひ絵本でかみしめてください。

09:20 | 読み聞かせ

■ 2022/11/14 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1年生

「みんなのくまくまパン」

作)西村 敏雄 あかね書房

“くまくまパン”は大人気のパン屋さん。

ある日、くまさんたちは、かぼの王さまにたのまれて王子さまのためのパンをつくることに。

くまさんは大きなクリームパン、しろくまさんは長いソーセージパンをつくります。

おいしそうなおいが広がり、お城のまわりにこどもたちが集まるほど。

けれども、王子さまは食べてくれません。

そのとき、お城の外から声が聞こえてきて…。

どうぶつの国のお城でくまのパンやさんたちががんばります。



窓の外からのぞいている 動物たちがすこしづつ増えていることに気がついたみんなは 「あっ！ また増えた」と しっかり絵を見てくれます。

そして いろんなパンが出てくる場面は「ぼくだったら こんなパン」とか みんな楽しそうに 想像していました。

とっても 盛り上がって 楽しく読めました。

2年生

「つきのぼんにん」

作)ゾシエンカ 小学館

新しい「つきのぼんにん」に選ばれたシロクマのエミールは、森の生き物たちにとってなくてはならない月の光を守るため、毎晩かかさず月のお世話をしていました。

ところがある日、エミールはおかしなことに気がつきます。

なんとお月さまが、どんどん、細く、うすくなっていくのです！

あの手この手でまん丸に戻そうとするエミールですが、月はどんどん細く、まるで糸のようになっていきます。

はたして、お月さまは元どおりのまんまるに戻るのでしょうか。



先日 皆既月食があったので やっぱり 月の絵本かな と思い選びました。
月の満ち欠けの話をしたら ちょっと？な顔をしていたので まだ 2年生では習っていないかったか！
大人になったら当たり前の月の満ち欠けも ふと気が付くとだんだん細くなったり また太ってきたり・・・は 不思議なことですよ。

3年生 「7日だけのローリー」

作)片山 健 学研

迷子の犬の飼い主を探す間だけ という約束で面倒を見る、見つからなかったら保健所へ・・・と 言っていたお父さんもだんだん情がわいてきて 家で飼おう、と いうことに。



昔は 捨て犬や捨て猫もよくあったので 実際に こういう経験をした親世代は多いのではないかと思います。
7日後、飼い主が現れて 犬も飼い主も喜び姿を見たら これでよかったんだけど やっぱりちょっと寂しい・・・そんな気持ちが 淡々とした文章ながらも きちんと伝わってきます。

4年生 「うろおぼえ一家のパーティー」

作)出口 かずみ 理論社

とある一家は、家族全員、揃いも揃ってうろおぼえ。
まもなく誰かの何かのお祝いの日なのですが、いざパーティーを開こうとすると、誰の何のお祝いだったか？...やっぱりうろおぼえ。
けれどお祝いしたい気持ちは本物なのです....



最初に あんまり覚えられないあひる一家の話だよ、とは 言ったのですが「うろおぼえ」って言葉 もしかしたら知らない人もいたかもしれませんね。

最初のページで 壁に貼っている張り紙の内容が、変わっているなと思ったら、伏線だったり あちらこちらに気になる答えの片りんは転がっているのだけれど、気がついたでしょうか？

5年生

創作「安じいのいろいろ昔話」

作)大萱 安雄

自分で作った 創作話を聞いてもらいました。

昔は囲炉裏が家の中心で 囲炉裏を囲んで一家だんらんがあった。
テレビやラジオもない時代には 囲炉裏の煙のでかたで 明日の天気を予測したり、
家族みんなが集まって いろんな話をしていたのが 次第に テレビが中心になり、個々にゲーム機やスマホなどを持ち
部屋も別々・・・。
というような内容を 昔話風に語りました。

読み聞かせ終了後に図書室で 節分の日には 柗の葉を囲炉裏にくべて 1月から12月の月ごとの天気を占った、という話を聞いて 美山の大人でも知らなかったという人や懐かしいという人などいて 盛り上がりました。

6年生

「うまれかわったヘラジカさん」

作)ニコラス・オールドランド クレヨンハウス

ヘラジカさんは、友だちがあそんでいても、なんだかんだ理由をつけて、あそびません。
でも、「ぼく、このままでいいのかな？」と悩みはじめ、思い切ってヨットで旅に出ます。
家を離れ、少しずつ変わりはじめたヘラジカさんは.....。



「まずは じぶんを 好きになってください。そこから すべてが はじまります。この ヘラジカさんが そうなれたように！」という 本の帯のこたばを伝えてから 読みました。

6年生には 易しすぎるお話のようですが 意外と真剣に聞いてくれていたようでした。

何をするにも「めんどくさい」とか「わからん」といいがちな子どもたちに「なんにも わからないなら なんでも やってみよう」そうすれば こんなにも楽しくできる ってこと お説教っぽくならず伝えられる絵本かな、と 思います。
「人生を希望に変えるニコラスの絵本」があと2冊あるので 紹介しました。



09:21 | 読み聞かせ

■ 2022/11/07 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1 年生

「くつやさんとおばけ」

作)いわさき さとこ BL出版

さびれた通りのくつやさんにやってきたのは、おばけのちょうちんごぞう。
アスファルトで足をいためてかわいそうに思ったくつやさんは、くつごこがやわらかい、合ったくつをはかせてやります。
すると次の日、今度はてんぐがやってきて……。
くつやのおじいさんと、おばけたちの交流を描いた心あたたまる絵本です。



怖いもの見たさもあるのかな 低学年はおばけ好きな子 多いですね。
「みんなは どんなおばけ知ってる?」と きいてみると みんな口々に いろんなおばけを教えてくれて 大賑わい(笑)
収まりそうもないので 「はじまるよー。せーの」というと
「く つ や さ ん と お ば け!」と声を合わせてタイトルを読んでもくれました。

つぎつぎとあらわれるおばけたちも魅力的。
みんなの知っているおばけもたくさん登場して うれしそうでした。
コロナ禍で人気の出た アマビエも知っていました。

2 年生

紙芝居「マッチうりのしょうじょ」

作)アンデルセン 童心社

大晦日の雪の夜、貧しい少女がマッチを売り歩いていました。でも1本も売れません。
凍えた少女がマッチを1本すすてみると暖かな炎が見えました。2本目3本目。
最後には天国のおばあさんの姿が見えました。そして翌日の朝、少女は…。



救いのない結末で さみしい気分になってしまったかな。ごめんなさい。

月曜の朝に読むには どうかな・・・と 思ったのですが 世界の名作といわれる昔話を知っていてほしいと思い 読みました。

日本の昔話は めでたしめでたし で終わるものが多いなか 外国のお話は 残酷だったり悲しいままで終わるものが結構ありますよね。

アンデルセン童話が 子どもだけでなく大人をもひきつけるのは 人生と同じように 明るく楽しい部分と同時に、暗い部分や残酷な面も あわせもっているからなのかもしれません。

3年生

「あおのじかん」

作)イザベル・シムレール 岩波書店

太陽がしずみ、あたりがまっくらになるまでのひととき、空の青色はだんだんと深まっていきます。

水色から濃紺へうつりゆく空のしたでは、アオカケスやコバルトガエル、ナガスクジラなど、さまざまな青い生き物たちが夜をむかえる準備中です。

ながめていると心がしんとおだやかになる、とくべつな「時」を味わう美しい絵本です。



絵本のスライドショーも電子黒板に映して 音楽付きで読みました。

朝の始まりにぴったりの さわやかな音楽から始まって カエルや小鳥の鳴き声の効果音もはいいり だんだんと 落ち着いた音楽へ。

淡々とした詩的な文章ですが 印象的で美しい絵と 素敵な音楽で 読んでいても引き込まれていくようでした。

4年生

「二平方メートルの世界で」

作)前田 海音 小学館

札幌に暮らす小学3年生の主人公は、生まれたときから脳神経の病気で入退院を繰り返している。

入院するとしばらくベッドの上での生活となる。お母さんは一緒にいてくれるが、放射線を使った治療のときは、ガラスを隔てて別々になる。

家ではお兄ちゃんが鍵っ子になる。申し訳ない気持ちだ。どうして自分だけが病気なんだろう・・・。

そんなある日、海音ちゃんは、病室で大発見をする。わたしはひとりぼっちじゃなかった！



実在の小学3年生が書いた「子どもノンフィクション文学賞」の大賞受賞作品が絵本になったことを話すと「えーっ すごっ!」という反応。
面白おかしいお話ではないけど 自分たちと同じくらいの子が書いたということもあってか しっかり聞いてくれていたと思います。

5年生 「ひみつのカレーライス」

作)井上 荒野 アリス館



先週3年生でも読まれていたとは知らず お話のおもしろさと 絵も見やすく 何より登場する犬が気に入って選びました。
5年生には ちょっと幼すぎるかな、とも思ったのですが 単純におもしろいお話に表情も和らいで 心が軽くなっている様子だったので ほっと うれしくなりました。

6年生 「はじまりのうた」

作)マイケル・J・ローゼン くもん出版

渡り鳥のローザは、自分のほっぺたと同じあかい色をした、〈ほっぺのはな〉が大好き。
秋になり、たびだつときがきてても、〈ほっぺのはな〉の種をはなそうとしません。
渡りの途中、つかれて川に落ち、仲間とはぐれたローザは、犬のミールと、飼い主のアンナに助けられ ミールとアンナの家で、〈ほっぺのはな〉を育てながら、みないっしょに冬をすごし、春をまつ・・・。

季節のめぐりとともに訪れる出会いと別れを、すいこまれるほどに繊細な絵と、ふっくらとやわらかなことばで描いています。



卒業まで あと数か月。
卒業しても ほぼ 同じメンバーで中学に進む美山の子どもたちにとって この時期に劇的な出会いと別れを経験する子は少ないのかもしれませんが。
それでも こういう気持ちをわかる人 想像できる人になってほしいなと思いました。
仲間との旅立つ気持ちや 別れの寂しさ 応援する気持ち など 言葉にはできなくても なんとなくそういう情感を この絵本を通じて感じてもらえたらうれしいです。

09:36 | 読み聞かせ

■ 2022/10/31 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1年生

「ぼくがラーメンたべてるとき」

作)長谷川 義史

教育画劇



全学年 この絵本を読もうと思い 今日の1年生でコンプリートです。

1年生なので 最初のラーメンのくだりから 「どんなラーメンがみんなは好きかな？」などと やりとりをしながら楽しく進めました。

紛争の場面では 1年生でも「ウクライナ」という言葉が聞かれました。

平和な日常を過ごしているみんなと同じ地球上の先に 貧困や紛争にまきこまれているこどもたちがいるということを 真剣に想像してほしいと思います。

2年生

「はちうえはぼくにまかせて」

作)ジーン・ジオン

ペンギン社

夏休み、お父さんの仕事が忙しくて どこへも旅行に行けない少年トミーは、近所の人たちの鉢植えを預かって世話をするアルバイトを思いつきます。

預かった鉢植えの植物たちは トミーの上手なお世話のおかげで、ぐんぐん成長し、家の中はまるでジャングルのよう。ある日、植物が育ちすぎて家を壊してしまう夢を見たトミーは、図書館から本を借り、剪定の仕方を学びます。



楽しそうに鉢植えを育てる子と、迷惑そうなお父さん。

イヤな顔をしながらも「やめろ！」と言わないところが、いいですね。

お家にも鉢植えがあったり 植物を育てるのは学校でみんな経験しているので 身近なお話といえるかな？

ただ水や肥料をやるだけではなく、剪定して育てて行くのを思いつくところが、賢いというか おとなな感じですね。

みんな とっても静かに聞いてくれていました。

3年生

「ひみつのカレーライス」

作)井上 荒野 アリス館

直木賞作家、井上荒野さんのはじめての絵本です。
カレーライスを食べっていると、口の中から種が出てきた。
種をうめると、やがて芽が出て...。
おいしいカレーの香りが、ただよう おもしろくて アットホームな絵本です。



急遽 ピンチヒッターではいったのですが、読み終えて 拍手をしてもらい 「ありがとうございました」と お礼を言われ とっても すがすがしい気持ちになりました。
地域の方と こういう交流ができていることは 素敵なことだなあと 改めて思いました。

4年生

「どんぐりの木」

作)亀岡 亜希子 PHP研究所

今年はじめて実をつけたどんぐりの木は、自慢のどんぐりを食べてもらうことを楽しみにしていました。
ところが、どんぐりはまだ青かったため、一口食べたリスに「まずい」と言われてしまいます。
そうとは知らず、どんぐりの木は自信をなくし、やがてどんぐりをつけなくなってしまったのです。
数年がすぎたころ、1匹のリスがどんぐりの木に家を作ろうとやってきました。
すると、どんぐりの木は「リスなんて嫌いだ」と、リスを穴から追い出してしまう。
それでも、このどんぐりの木を気に入っていたリスは、掃除をして、ペンキをぬって.....せっせと素敵な家を完成させました。
そんなある日、お客のリスたちが「この木はどんぐりをつけないし、つけてもまずいらしい」と言います。それを聞いたリスとどんぐりの木は.....。



秋になると 美山の山の色が美しく こういう秋色の美しい本が読みたくなります。
まるで美山の山を描いたような1ページ目です。

固く心を閉ざしたどんぐりの木に、リスはただ幸せそうに過ごす姿を見せるだけ。
でも無理に説得させようとしたり、怒ったりするよりも、どんぐりの木にとってはそれが何より心動かされることだったのですね。

2年前に拾って植えたどんぐりが 芽をだして少し大きくなってきたので みんなにも見てもらいました。
大きく育って 実がたくさんなるまでに 何年ぐらいかかるのでしょうかね。



と いうことで 短い写真絵本を・・・

「どんぐりもりのおきゃくさん」

作)香山 美子 ひさかたチャイルド



秋、どんぐりの森では、木々が無数のどんぐりを落としました。
その実を求めてやってくるサルやリス、ネズミ、鳥などの動物たち。
森は動物たちの命をはぐくんでいるのです。そして、食わずに残ったどんぐりは、
やがて芽を出し、大きな木へと成長していきます。
こうした森での営みを美しく鮮明な写真で紹介しています。

5年生

「グリドングリドン」

作)宮西 達也 ひかりのくに

すごくぐうたらな王様が「グリドン グリドン」と唱えると、何にでも変わる魔法のドングリを持つ猫をつかまえました。
王様は魔法のドングリを猫から取り上げて、城からみんなを追い出し、好き放題に一人で暮らしていました。
でも、だんだん寂しくなってきたので、猫の姿に変身して町へでかけていきますが...



呪文を唱えると 願いが叶う、というのは 昔話の定番ですが 宮西さんの絵も面白く 5年生でも興味津々で聞いてくれました。
最後にぐうたらな王様が 懲らしめられて改心するのかなと思えば ぐうたら最高と 満足して終わるのが笑っちゃいます。

6年生

「サキサキ オノマトペの短歌」

編)穂村 弘 岩崎書店

オノマトペの短歌を 14首収録。句の歌人・穂村弘が、選と解説を担当。
俵万智、北原白秋など、おなじみの歌人が登場します。



短歌のイメージや場面が 高島那生さんの絵によって印象的に膨らみます。



絵を見ながら 短歌の世界を味わってほしかったので 電子黒板に映して読みました。



意味がわかりにくい短歌もあったと思いますが 月曜日の朝の時間に なんとなく耳心地の良い言葉を ぼーっと聞いてもらうのも いいかなあと 思いました。

おそらくは狙った通りに、ぼーっと とても静かに聞いてくれていました。

09:29 | 読み聞かせ

■ 2022/10/24 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1年生

「くまのこうちょうせんせい」

作)こんの ひとみ 金の星社

おはよう!大きな声のくま校長先生。小さな声のひつじくん。
ある日、校長先生は小さな声しか出せなくなっていました。
でも、それでわかったことがあったのです。
「命の授業」を続けた実在の校長先生をモデルにした絵本。



以前3年生で読みましたが その時よりも 1年生は いちとさんの絵が かわいくて目をひくのか 絵の細かい部分にたくさん反応していました。
 その やりとりをしながら読んだので じっくり読めたと思います。
 大人だったら なんでもないところでも こどもにとったら「なんで?」とか「それなに?」という素朴な疑問がたくさんあるようで 面白かったです。

2年生

「さんまいのおふだ」

作)千葉 幹夫 小学館

山姥が出るという山に栗拾いに行った小僧さんは、和尚さんの心配通り、おそろしい山姥に捕まってしまいます。和尚さんのくれた三枚のお札を使って、逃げる小僧さん。
 お札を投げて、大きな砂山を出現させたり、大きな川で邪魔をしりますが、山姥はそれでも追いかけてきます。かろうじて小僧さんはお寺に逃げ帰ることができました。
 山姥をむかえた和尚さんは、知恵を使って、山姥を退治します。
 さて、それはどんな方法だったのでしょうか？



絵本を見せると「知ってる」「こわい話や」という子もいました。
 「さんまいのおふだ」もいろいろ出版されていて 日本各地で語り伝えられたお話なので それぞれアイテムが違っていたりしますが どれも 子どもたちの興味を引く 恐ろしくも面白い昔話だと思います。
 この絵本は 線や色遣いがしっかりとっていて 迫力のあるやまんばに目が釘付けになります。
 みんな真剣な顔で 聞いてくれていました。

3年生

「わたしのそばで きいていて」

作)リサ・バップ WAVE出版

国語の時間なんて大きい。
 わたしが間違えたりつかえたりすると、みんながクスクス笑うから。
 そんなマディはある時、図書館で1匹の大きな白い犬と出会い…。
 米国やヨーロッパの図書館に実際にいる犬たちの物語です。



たまたまテレビで ホースセラピーについての番組を見ました。
動物たちと ただ 触れ合うだけ、ただ 寄り添うだけ・・・でも それによって人の気持ちが 癒されたり励まされたりすることって ありますよね。
「がんばって」という励ましの言葉よりも 力をもらえるものがあるのだということ いつも心にとめておきたいです。

4年生

「サンドイッチにはさまれたいやつよっといで」

作)岡田 よしたか 佼成出版社

サンドイッチの具になりたくて、閉店後のパン屋にしのびこんだ具たち。
ハム！ トマトとチーズ！ やきそば！
ワクワクしながら食パンにはさんでもらっていると、「ぼくらも はさんで」と、次から次へと個性的な具がやってきて……。



岡田よしたかさんの絵本でおなじみの関西弁の絵本は やっぱり関西人にとっては とっても読みやすく すらすらとしゃべるように読めてしまいます。

ダジャレとナンセンスさだけのお笑い絵本なのですが 月曜日の朝に なんにも考えずに笑える絵本も いいなあと思っ
て読みました。
でも 意外と落ち着いて聞いてくれていました。
もっと受けるかな と思っていたんですけど・・・。

5年生

「きょうは おかねがないひ」

作)ケイト・ミルナー 合同出版

うちのママは ほんとに いっしょうけんめい おしごとをしてるし、
おかねのかからない たのしいことを いっぱい しってるの。

でも　うちに　たべるものが　なくなっちゃったら　ママと　フードバンクに　いかないと。
いつかは　そんな　しんばい　いらなくなるよね.....



どきっとするタイトルなのに　幸せそうな母と子の絵。
なんと　アンバランスなのですが　この絵本は　貧困をテーマにしています。

「フードバンク」「チャリティーショップ」という言葉がでくるので　最初にその説明をしました。
こういうことを知っている子もいるかな、と　思ったのですが　どうやらだれも知らない様子でした。
でも　最初にそう言う話をしたからか　ただ　静かにというだけではなく　真剣に聞いてくれている　という感じが読んでいて伝わってきました。

6年生

「へんな怪獣」より「接着剤」

作)星新一　　理論社

接着剤の研究をしているエヌ氏が開発したのは、時限接着剤とでも呼ぶべき優れもの。
接着剤の種類によって、接着時間を自由に決められるのです。
効果を目の当たりにして感心する友人。と、そこへ強盗がやって来きます。
なんと、この接着剤を犯罪に利用しようというのです。
そのときエヌ氏がとった行動とは・・・。



SFを中心に生涯1000編を超える作品を執筆し、現在も国内外で人気の「ショートショート的神様」星新一さんの作品を朗読しました。

「接着剤」は1968年に書かれた作品ですが　今読んでも　ちっとも古さを感じさせないことにおどろきます。
こどもたちも　くすつと笑ったり　へえーつと驚く様子が感じられたりしたので　楽しんでくれたのではないかと思います。

09:34 | 読み聞かせ

■ 2022/10/17 ■ 「よむよむ」による朝の読み聞かせ

| by 美山小

1年生

「ちがうねん」

作)ジョン・クラッセン　　クレヨンハウス

いっぴきのちいさな魚がぴったりのぼうしをかぶってすいすいと海の中を泳いでいます。
それは誰のぼうし？　ちいさな魚の頭の中ではぐるぐるといろいろな思いが渦巻いています。

しんと静かな海の中。ちいさな魚の目ざす先は、きっと安全なところ。
そう信じて泳ぎ続けますが.....。



まず 「魚の目を よくみててね」といって 読み始めました。
「ぼくのことなんか あやしめへんわ」という セリフのところで 魚の目が 疑い深い細い目になってるのですが ちゃんと「あやしんでるやん!」と さすが関西人 という テンポのいい正しいつこみをしてくれて とっても楽しく読めました。

「となりのためき」

作)せな けいこ すずき出版

うさぎは、大嫌いな隣のためきをこらしめようとお月さまをお願いします。
その願いを聞き届けるための条件とは...



いきなり「だいっきらい!」とか 「へん、いじわる うさぎ!」などの ののしりあいから始まるので ちょっと どうか
な・・・と 思うような絵本ですが 実はとっても いい展開になるんですよ。好きな絵本です。

どちらの絵本も 知っている子は何人かいたようですが みんなしっかり聞いてくれていました。

2年生

「ピエロのかがみ」

作)大内 曜子 岩崎書店

サーカスがおわりました。たのしかったけれど、はんぶんつまらないゆうきくん...。
なぜって、まだかちゃんといっしょにみられなかったからです。
そんなゆうきくにピエロがとくべつのおみやげをくれました。それは...



この絵本 サーカスの様子が描かれた 文字のないページが最初が続くので みんなに見せながら 何かわかる? と 聞いてみましたが 描かれている「ピエロ」とか「ゾウ」とかは言ってくれたけど「サーカス」という言葉はできませんでした。

「サーカス」を知らない子 多いようでした。

ちょっとびっくりしましたが そういえば 最近 サーカスってあんまり聞かないですね。
心温まるお話で 終わると自然に笑顔になります。

3年生

「アイウエ王とカキクケ公」

作)三芳悌吉

童心社

むかし、アイウエ王国という国がありました。そのとなりには、カキクケ公国という国があって…。

五十音で作った物語です。

最初と最後に劇場の風景が描かれていて、楽団がいて、客席の女性の髪形をみると 昔懐かしい活劇のようです。

原案の武井武雄さん、文と絵の三芳悌吉さん共に明治生まれ。

作者の三芳さんは 子どもの頃 劇場で外国人が語った「アイウエ王様」という物語が印象深く それを絵本にしたそうです。

実は その原案は 大正時代に武井武雄氏によって書かれた童話だったとわかったそうです。



もう少し 面白がってくれるかな と思っていたのですが 意外とシーンと静かに聞いてくれていました。

絵が昔っぽくてシリアスな感じだったからでしょうか？

流れがわかるので最後にきいてみると 声を合わせて「ラリルレ牢」とか「ワイウエ王」と言ってくれたので ホッとしました。

4年生

「いろいろへんないろのはじまり」

作)アーノルド・ノーベル

富山房

昔、色のない時代がありました。魔法使いが、最初は青、次は黄色、その次は赤の世界をつくりだします。

でも、一つの色だけでは、なんだか落ち着きません。

そこで色を混ぜ合わせると、どうなったでしょう？



変わり映えがなく退屈な「はいいろの世界」からお話がはじまり、悲しい気分になる「あおの世界」→ まぶしくて頭の痛む「きいろの世界」→ 怒りっぽくなる「あかの世界」へと、色とともに人々の感情が変化する様が楽しめます。

そして 何気に色の三原則も わかっちゃう 芸術の秋にもふさわしい絵本ですね。

作者が「ガムくんとカエルくん」を書いた アーノルド・ノーベルだというと「あ〜 知ってる」と うれしそうでした。

5年生

「三びきのコブタのほんとうの話」

作)ジョン・ジェスカ

岩波書店

三びきのコブタが つぎつぎとこわいオオカミに襲われるという有名な昔話を、加害者のオオカミの立場から見たらどうなるか。そういう発想でつくられ見事に成功し、たちまちベストセラーになった絵本です。



おばあちゃん思いの心優しいオオカミ という設定なのですが 襲ったとされる理由がなんとも屁理屈っぽくて しかも 結局はコブタを食べちゃうというのは 外国のお話らしくブラックユーモアですよ。

6年生

「じがかけなかったライオンりおうさま」

作)マーチン・パルトシャイト フレーベル館

ライオンの王さまは字が書けません。
でも、めすライオンを好きになり、ラブレターを出そうとしますが…。
そこで他の動物に手紙の代筆を頼みます。
しかもそれはラブレター。
それぞれの動物は、自分の習性にあった手紙を書くので、ライオンは「ちがう」と怒ってしまいます。
愉快なドイツの創作絵本。



スライドショーにして 電子黒板に大きく映して読みました。



冒頭 ライオンの王様が 好きになったメスライオンにキスをしたい、というくだりがあるのですが 前に座っている男の子が 急に反応して周りの子に何かささやいたりして そわそわしていました。
はっきりラブストーリーだとわかるお話は 意外と少ないので ストレートなラブな気持ちに 聞いているだけでも照れてしまうのかな？
こんなことでうれしく(?)なっちゃうんだ と ほほえましかったです。

1年生

「ないた」

作)中川 たかひろ

金の星社

ころんでないた。ぶつけてないた。けんかしてないた。しかられてないた。うれしくてないた。おかあさんは・・・？
大人はどうして泣かないのかな？
そんな子どもの素朴な疑問を描いた絵本です。



はじめての読み聞かせなので 文章の多くない 読みやすそうな絵本を選んだのですが、場面ごとに子どもたちが口々に答えてくれるので なかなか次に進めず・・・(汗)

「泣く」の尺度は人それぞれ違うってこと、「泣く」ことは悪いことじゃないんだ、大切な自分の感情表現の一つなんだって。

それを知っているだけで、どれだけ子どもは救われるでしょう。

それを知っているだけで、どれだけ大人も楽になれるでしょう。

人には、いろんな「泣く」があって いろんな「涙」がありますよね。

「泣く」ことについて、改めて 考えてみるきっかけになる絵本です。

2年生

「ききみみずきん」

作)いもと ようこ

金の星社



先週は1年生で読まれた紙芝居の「ききみみずきん」ですが 偶然 今週は2年生で絵本「ききみみずきん」読みました。
いもとようこさんの「ききみみずきん」では おじいさんが 助けたきつねからがききみみずきんをもらいます。
なるべくわかりやすい言葉で昔話を書いているのですが それでも 「介抱」など いくつかわからない言葉があったようでした。

3年生

「6わのカラス」

作)レオ・レオニ

あかなろ書房

ムギをめぐって6わのからすと農夫が知恵くらべ。

でも、そんなことをしているあいだに畑のムギは…。

敵だと思いこんでいた相手と違って、ちゃんと話せば、きっとわかりあえる。



導入で カラスに畑のきゅうりをとられた話をしたら 「うちの畑でもキュウリがとられた」とか「おじいちゃんがお菓子をとられた」とか 言ってました(笑)

「言葉には魔法の力がある」というフクロウのきめ台詞がかっこいい。
私たちの日常においても 言葉足らずで齟齬が生まれることはありますよね。
ちょっと言葉をかけることで 相手の話を聞くことで うまくいくこともある。
自分にとっても 改めて 肝に銘じた絵本です。

4年生

てのひらむかしばなし 「しおふきうす」

作)長谷川 摂子 岩波書店

貧乏な弟が、一晩のうちにりっぱな屋敷をたて正月を迎えるとは、どうしたことだ？
欲深い兄は、弟の手に入れたふしぎな石臼をぬすみですが.....。
海の水はなぜ辛いかを語る楽しい話。日本画風の絵が粋です。



小さな絵本なので どうやって見てもらおうかと思っていたら 担任の先生が素早く全ページを写真にとってくれて、電子黒板に大きく映してくれました。
しかも ページの移動は 前に座る子がお話を聞きながら ipadでスイスイと！
すごいですね。
みんな集中して画面を見てくれていたし 読むのも読みやすかったので とっても助かりました。

5年生

「10分で読める神話と星座の話」より

「七ひきのぶた」

作)横山 洋子 学研

12星座の物語をはじめ、星にまつわる日本の神話や世界の伝説が書かれている本です。その中から中国の昔話で北斗七星のお話を読みました。

北斗七星には、ひとまとまりの星座としてではなく、七つの星を一人一人として擬人化した神話や物語がたくさんあります。



アラビアでは北斗七星を棺を引く三人の娘としていますし インドでは仙人とされています。
そして 中国では なぜか豚。
北斗七星である豚を捕まえて 無実の罪の人を許してもらう、というお話。

こんなふうに 星座が神話になっていることを話すと 知らなかった子もいたようで 興味がありそうな表情をしていました。



絵本ではないので 絵を見てもらいにくくて みんなのほうに本を開いて邪魔にならないようにしゃがんで読んでみたところ 終わると拍手をしてくれたので びっくりしましたが とてもうれしかったです。

6年生

「フレデリック」

作)レオ・レオニ 好学社

仲間野ねずみが、冬に備えて食料を貯えている夏の午後、フレデリックだけは何もせず、ぼんやり過ごしておりました。
寒い冬がきて、フレデリックは・・・

仲間たちで生きていこうとする時、目の前に立ちはだかった問題をどう解決していくのか。
答えは一つのように、一つではなく。
思いもよらない方法があることを否定することなく。
そこにこそ、芸術の可能性が秘められているのかもしれないと.....。



レオ・レオニの描く絵本の世界の住人たち、その多くは小さく愛らしいものたち。
この名作『フレデリック』もそう。かわいくて 愛嬌だって抜群です。
だけど立ち向かっている問題はいつも骨太で哲学的で なかなか考えさせられるお話なんですよ。

サブタイトルが、～ちょっとかわったのねずみのはなし～とあります。

人と違う考え方をしたり、人と違う視点で物を考えたり、一見すると悪い事に思えてしまうようなことも、自分を信じてそれをまっとうする。
それで良いんだってことを フレデリックは教えてくれます。

09:44 | 読み聞かせ